

令和4年度実施分 協働事業・市民活動助成事業 報告シート



松 戸 市



はじめに

松戸市では、「豊かで活力ある地域社会の実現」をめざして、市民及び市民活動団体、民間事業者と市による「協働のまちづくり」を推進しております。

その支援として、市民活動団体・民間事業者の活力を活かし、市と事業の企画から実施までを協力して行う「協働事業提案制度」と、新たな市民活動の立ち上げや既存の活動を発展させる「市民活動助成制度」があります。

【協働事業提案制度】

協働事業は、市民活動団体や民間事業者と行政のそれぞれが強みの部分を活かし、身近にある地域課題の解決に向けて、協力して実施する事業です。

協働事業提案制度は、市民活動団体や民間事業者が、協働事業を提案し、市と協力して、その事業を企画し、実施する制度です。

令和4年度は6事業実施しました。

【市民活動助成制度】

新たな市民活動を立ち上げるため、又は、既存の活動をさらに発展させるための事業に要する一時的な資金を助成することで、市民活動の活性化を図り、豊かで活力ある地域社会の実現に貢献することを目的とします。

新しく事業を立ち上げるときや、今行っている事業を発展させたいときに提案できる「スタート助成（助成上限額 10 万円）」と、既存事業を拡大、発展させたいときに提案できる「ステップアップ助成（助成上限額 30 万円）」の2つの部門を設けております。

令和4年度は13事業（スタート助成7事業、ステップアップ助成6事業）実施しました。

目 次

令和4年度協働事業・市民活動助成事業 事業概要

【協働事業】		ページ
○ 日本語を母国語としない子どものための学習支援事業	認定NPO法人 外国人の子どものための勉強会 国際推進課	1
○ 地域まるごとで孤育てを予防する連携システム事業	まつどでつながるプロジェクト運営協議会 子ども政策課	2
○ 町会・自治会の活動をPRして親しみをもってもらおう事業	できる街プロジェクト 市民自治課	3
○ 料理教室を通じた父親の意識改革事業	MAISON IZARRA Oyatsu labo * T nature メゾンイザラおやつラボ*テ ナチュレル 男女共同参画課	4
○ 「まつどの介護」プロモーション事業	特定非営利活動法人 SmileResource 介護保険課	5
○ 松戸のイメージ向上のためのコミュニケーション事業	まつどのこもりかた。編集部 広報広聴課 シティプロモーション担当室	6
【市民活動助成事業（スタート助成）】		ページ
○ 梨香台団地付近の多世代交流型居場所事業	梨っこ食堂	7
○ 発達障害・不登校等の親の会事業	あんだんて	8
○ 松戸市民向けSDGs普及啓発促進事業	まつど地域活躍塾つながりの会	9
○ 金ヶ作歴史散策まっぷプロジェクト事業	金ヶ作歴史同好会	10
○ ぶどうの家 ふれあいコンサート・イベント事業	特定非営利活動法人 葡萄の家	11
○ 四世代のきずなで、豊かな生活環境を実現する事業	小金原みんなでわくわくする会	12
○ 松戸市ご当地漫画&アニメ制作事業	超普通スタジオ	13
【市民活動助成事業（ステップアップ助成）】		ページ
○ みんなで育て、みんなで作る 沿道での食べられる景観事業	エディブルウェイプロジェクトチーム	14
○ 親子で安心、子ども達が楽しく育つ居場所づくり事業	なないろのもり	15
○ 「食」と「コミュニケーション」によるつながりづくり事業	生きづらわーほりプロジェクト	16
○ ときわだいらオープンアトリエ事業	特定非営利活動法人ディーブデモクラシー・センター	17
○ 松戸市民も命を大切にしてみます事業	松戸地域猫スタートサポート	18
○ 冒険山開放に伴う見守り事業	冒険山開放委員会	19
● 協働のまちづくり基金について		20
● 協働のまちづくり基金 寄附者一覧(令和4年度)		21

日本語を母国語としない 子どものための学習支援事業	団体名	認定 NPO 法人 外国人の子どものための勉強会
	事業担当課	国際推進課

事業費	754,068 円	自己資金	254,068 円	負担金	500,000 円
-----	-----------	------	-----------	-----	-----------

令和4年度（2022年度）事業の取り組み【報告】

日本語を母国語としない子どもたちを対象に行ってきました、日常生活に必要な日本語指導及び学校での授業内容を補う既存事業に関し、従来からの事業の一層の強化を試みました。そのなかで、来日後、間もなく日本語が初めての子どもたちに初級クラスを新たにつくり実施しました。また、オンラインによる学習支援の推進に取り組みました。

さらに、新規事業として、地域の人々に多文化共生についての認識を高めてもらい、あわせて学習支援活動への参加の契機ともなるような全5回の講座「多文化共生が未来のカギ→地域でささえる子どもの育ち」を行いました。



令和4年度（2022年度）事業の成果

日本語が初めての子ども6名を対象にした初級クラスは一斉授業で始めましたが、子どもの日本語レベルに差がありマンツーマン形式に切り替えて行い効果的でした。

オンライン学習については、ネット上に使用教材の集約など準備作業を進めました。

学習支援の活動強化に関しては、受け入れ生徒数が前年度35人、目標52人に対し55人、学習支援スタッフ数も前年度末42人、目標52人に対し61人と、コロナ禍のなか共に増加させることができました。

なお、多文化共生講座は、8月から10月にかけて、多彩な切り口で5回実施し参加者は延べ193名で、多くの方に好評でした。また、受講者の中から7名の方が当会の学習支援スタッフとなりました。

【団体紹介】

日本語を母国語としない子どもを対象に、真の自立のため文化ホール教室、常盤平教室、新松戸教室の3つの教室で小・中学生を対象との日本語学習を主とする学習支援を行なっています。また、参加した子どもの交流を図るイベントなども実施しています。

《問合せ先》

認定 NPO 法人 外国人の子どものための勉強会 〒270-0034 千葉県松戸市新松戸 7-517
 TEL・FAX： 047-345-2051 メール： gaikokukodomo@msn.com
 ホームページ： <https://www.esco-matsudo.org/> 理事長 海老名 みさ子

地域まるごとで孤育を 予防する連携システム事業	団体名	まつどでつながるプロジェクト 運営協議会
	事業担当課	子ども政策課

事業費	271,590 円	自己資金	29,590 円	負担金	242,000 円
-----	-----------	------	----------	-----	-----------

令和4年度（2022年度）事業の取り組み【報告】

●地域円卓会議…行政・民間それぞれの支援者が集まり、現状の取りこぼされている課題を共有し、検討する中で相互の連携に向けた関係づくりを目的として全3回開催した。対話では子育ての困難を抱える前のなるべく早い段階から地域資源につながる重要性や、不登校に関する課題感や学校と地域の連携について話し合った。第3回は「松戸市子ども・若者の支援を考える会実行委員会」との共催で開催した。



●市民サポーター養成講座…街のいたる場面で子育てをあたたく見守る市民を増やすことを目的として、講演会および連続講座を開催した。講演会では一般社団法人 JACE 理事長の武田様に講師に来ていただき、現代の子育て・赤ちゃんを取り巻く環境の変化についてお話いただいた。また連続講座では3回にかけて、今の子育てに対してどのような関わりが求められているのか、参加者自身が課題に取り組みながら考えるワークショップを行った。



令和4年度（2022年度）事業の成果

<地域円卓会議>

目標：年3回の実施を予定。延べ80名の参加者をを目指す。→延べ126名と達成することができた。

第1回円卓会議の開催 テーマ「乳幼児期における子育ての孤立」 参加者41名

第2回円卓会議の開催 テーマ「児童期における子ども、子育ての孤立」 参加者29名

第3回円卓会議の開催 テーマ「青年期における若者の孤立」 参加者56名

<市民サポーター養成講座>

目標：多様化する子育ての困難さやニーズに対して調査を行い、それに基づいたカリキュラムを作成してプレ開催を実施する。参加者数20名を目指す。→延べ17名と概ね達成することができた。

公開講演会「社会で子ども・子育てを支える」…参加者13名

第1回養成講座「子育てを取り巻く環境・価値観の変化について」…参加者16名

第2回養成講座「松戸の子育て事情・支援の情報について」…参加者12名

第3回養成講座「地域で取り組むサポートを考える」…参加者15名

追加ミーティング「今後どのような活動を行っていくかの検討」…参加者6名

【団体紹介】

公的支援が届きづらい、制度からこぼれ落ちてしまいがちな子育て家庭が、身近な地域やサポートにつながれる、抱え込まず「助けて」と声をあげられるよう、地域全体で温かく迎え入れられる環境を作り、「孤立する子育てを防ぐ」ことを目的として様々な事業に取り組んでいます。

《問合せ先》団体名：まつどでつながるプロジェクト運営協議会 住所：松戸市本町13-27

子育てつながるセンターco-no-mi 電話：070-1362-3777 Eメール：info@m-tsunagaru.com

ホームページ：https://m-tsunagaru.com 担当者名：阿部

町会・自治会の活動をPRして 親しみをもってもらう事業	団体名	できる街プロジェクト
	事業担当課	市民自治課

事業費	562,044円	自己資金	62,044円	負担金	500,000円
-----	----------	------	---------	-----	----------

令和4年度（2022年度）事業の取り組み【報告】

A. 松戸市町会・自治会PR内容の調査・ヒアリング

→脚本制作のための情報収集（3/24～6/30）、中和倉第一町会（第5話：町会・自治会の環境美化活動について）（3/24）、常盤平西窪町町会（第6話：町会・自治会の防犯活動について）（5/11）

B. 松戸市町会・自治会PR漫画の制作・公開

→第1話～第6話制作（3/25～3/8）、漫画公開（第1話～第6話）（2/20～3/9）

C. 松戸市町会・自治会PRアニメの制作・公開

第5話アニメ制作（7/1～1/14）、第6話アニメ制作（7/1～3/18）、音声収録（9/10）、第5話アニメ公開（1/15）、第6話アニメ公開（3/19）

D. 松戸市町会・自治会PRを目的とした無料配布冊子の制作・無料配布

フライヤー、ポスター制作（11/25～2/9）

フライヤー、ポスター配布開始（2/15～）



E. プレスリリース

インターネットプレスリリース（3/15）

令和4年度（2022年度）事業の成果

漫画【制作数：6話、SNSでの視聴回数：19,846回】

動画【制作動画数：2本、SNSでの視聴回数：11,160回】

無料配布用漫画冊子【1冊、制作冊数：3,000部】

2023年度の町会・自治会加入率【65.90%（2020年度：67.85%）】

【団体紹介】

2015年10月設立のNPO企画団体・市民公益活動団体。地域活性化を主な目的として、プロアマ問わずクリエイターが多く在籍し、アニメ・漫画を使った市のPR活動、障害者支援、引きこもり支援など多岐にわたり活動。

《問合せ先》

【団体名】できる街プロジェクト【TEL】090-4966-5535【MAIL】project@dekimachi.com

【HP】https://dekimachi.com/【担当者名】村井 真也

料理教室を通じた 父親の意識改革事業	団体名	MAISON IZARRA Oyatsu labo * T nature メゾン イザラおやつラボ*テ ナチュレル
	事業担当課	男女共同参画課

事業費	460,118 円	自己資金	89,365 円	負担金	370,753 円
------------	-----------	-------------	----------	------------	-----------

令和4年度（2022年度）事業の取り組み【報告】

父親が主体的に家事・育児へ参加するきっかけづくりと、男女は対等なパートナーであることの理解促進のために、【父と子のお菓子作り体験教室】を開催。

料理講習として父親と子どもと一緒に料理をする機会を提供し、あわせて、父親としての家庭参画、家事や子育てについて考えました。

- ・調理イベント（2.5時間）＋ワークショップ（30分）のプログラム組み立て
- ・レシピの作成（卵不使用レシピ）や試作、材料の選定・調達、広報用チラシ・ポスター作成
- ・調理レクチャーとサポートを行いました。



令和4年度（2022年度）事業の成果

4回開催とも定員を超える申込があり、関心を持っていただきました。

参加者目標については、各回10組（第4回のみ11組）で開催し、達成することができました。

【目標：40組80名】【結果：40組105名】

ワークショップでは家庭での父親の役割についての意見交換を通して、男女は対等なパートナーであることの理解促進をし、アンケート結果により、家事・育児に関する考え方の変化がみられました。子どもとの料理体験がとても楽しかったとのお声を多く頂き、「また参加したい」「家でも挑戦してみます」とのご感想も頂きました。

調理を通して父と子の関係が深まり、家庭に持ち帰って家族で食べる事で、父親の家庭参加のきっかけづくりができ、男性の家事・育児への心象的なハードルを下げることができました。

【団体紹介】

MAISON IZARRA Oyatsu labo * T nature メゾン イザラおやつラボ*テ ナチュレル
料理教室を通じて『手作りの楽しさと、食の大切さ』を伝える活動と、
社会の根っこである家族の絆になるきっかけづくりを行います。

《問合せ先》

MAISON IZARRA Oyatsu labo * T nature

Mail: izarra@orion.ocn.ne.jp

http://izarra.chagasi.com

担当：笠井

「まつどの介護」 プロモーション事業	団体名	NPO 法人 SmileResource
	事業担当課	介護保険課

事業費	213,281 円	自己資金	25,883 円	負担金	187,398 円
-----	-----------	------	----------	-----	-----------

令和4年度（2022年度）事業の取り組み【報告】

「松戸市の介護制度を動画にして見える化しよう！」をスローガンに今年度も各介護事業所にお邪魔しその様子のショート動画を制作していきました。

昨年と同様に新型コロナウイルス感染症により、計画どおりの制作ペースで進めることができませんでしたが、今年度は千葉県松戸向陽高等学校の学生さんらに制作ボランティアとして参加いただいたことで昨年以上の内容のある動画となったと思います。

制作に参加してくれた学生さんらは皆さん介護を学ぶ福祉教養科に在籍していることで、学校での学びの延長上でのボランティア参加となり「楽しみながら介護現場の取材やそこで働く職員さんらへのインタビューを体験でき参加してよかった」と評価をいただいています。

また若い世代が介護の事業所や仕事を紹介する動画をつくることができたことで、介護の現場と仕事のイメージがとても“キラキラと輝く”ような印象の動画になったと感じています。



令和4年度（2022年度）事業の成果

目標に対する成果を報告させていただきます。

- ① 介護保険サービスを種別ごとに5～10分程度のPVとして制作
目標：おおよそ30種別中8～10本程度 結果：7本
- ② 介護を学ぶ学生及び動画制作に興味のある学生ボランティアの参画
目標：年間5～10名 結果：学生18名参加 千葉県立松戸向陽高等学校 福祉教養科の皆さん
- ③ 完成したPVの上映会を開催
目標：2回 結果：市内中学校2校の学生さんらに2回上映
- ④ その他：市イベント等にて動画の放映（パートナー講座、ゆうまつどフェスタ、入門的研修）
千葉県主催 介護フォーラムへの出展、ハローワーク松戸にて動画放映中

【団体紹介】

私たちは“介護離職0の社会を目指して、令和2年から活動しているNPO法人です。動画制作のほか、介護者及び高齢者サポートのセミナーやイベントを開催しています。

《問合せ先》

NPO法人 SmileResource 松戸市旭町4-1140-3

TEL)090-2722-2692 mail)smilenpo3@gmail.com HP)http://smilersource.jimdosite.com

松戸のイメージ向上のための コミュニケーション事業	団体名	まつどのこもりかた。編集部	
	事業担当課	総合政策部 広報広聴課 シティプロモーション担当室	
事業費	72,180 円	自己資金	16,218 円
		負担金	55,962 円
令和4年度（2022年度）事業の取り組み【報告】			
事業内容：WEBサイト「まつどのこもりかた。」の記事作成、サイト運営			
1-1. WEBサイト(Twitter、Instagram含む)公開までの流れ			
(1) 情報収集(随時)→SNS・地域性・店舗状況等を勘案			
・若者世代に支持されている店か(アンケート、口コミ紹介等)			
・若い女性が1人で過ごしやすい、くつろげる店(場所)か			
・地域で親しまれているか(客層、評判など)			
・オーナーや店員の人柄は魅力的か などから総合的に判断			
(2) 店舗下見、撮影交渉(撮影日の約1~2カ月前)、編集会議			
(3) モデル探し&事前説明(約1カ月前)			
(4) 撮影事前準備(機材の準備・設定、メイク・衣装調達など)			
(5) 撮影(当日)設営、メイク、テスト撮影、 料理、モデル&店長インタビュー、本番撮影			
(6) 編集会議、インタビューのまとめ			
(7) HP 作成・編集→内容確認(店舗、モデル)→公開			
1-2. Webサイト「まつどのこもりかた。」の周知			
・SNSでの本サイト更新情報の発信〔令和4年度（2022年度）各月〕			
※松戸市と連携し、広報まつどや松戸市のSNSでも情報発信。			
※「まつどのこもりかた。」のバックナンバーを松戸市HPに掲載。			
令和4年度（2022年度）事業の成果			
目標：TwitterとInstagramのフォロワー数合計1,500件以上			
結果：1,225件（Twitter：247、Instagram：978）※3月9日時点			
当初予定していた記事投稿数の半分以下となってしまったため、フォロワー数を増やしていくことが難しかった。しかしながら、各SNSに松戸市民から多くの「いいね」や多数の「コメント」をもらい、相互的なコミュニケーションを図ることができたため、松戸ファンを増やす手段としては有効だったと考えている。			
【団体紹介】			
「まつどのこもりかた。編集部」は松戸で育ち、松戸を愛してやまない20代の5名からなる団体です。すでにある地域の魅力的なお店を独自にインタビュー・撮影し、WEBを中心とした記事の作成とSNSによる情報発信により「まつどのこもりかた。」を通じて様々な方に広く知ってもらうことで、新たな松戸の魅力発見につなげている。			
《問い合わせ先》			
まつどのこもりかた。編集部 代表：伊藤弘樹 matsudonokomorikata@gmail.com			



梨香台団地付近の多世代交流型居場所事業	団体名	梨っこ食堂	
事業費	213,724円	自己資金	113,724円 助成金 100,000円
令和4年度（2022年度）事業の取り組み【報告】			
<p>梨っこ食堂は、コロナ禍、地域に不足している居場所を、子どもを中心とした、食事や学習、困窮世帯へ食材やお弁当・衛生用品の提供をしながら、誰でもが参加できる居場所として活動して参りました。</p>			
	<p>事業内容は、コロナ感染の影響に配慮して、一部変更したものの、概ね計画通り実施する事ができました。ただし、コロナ感染による小中学校の学級閉鎖など感染状態により、運営メンバーを固定にせざるを得ず、安全・安心を保てる最低人数にての実施となりました。</p> <p>定期的なイベントやワークショップは、子ども達の新たな経験の場や将来のやりたい事を見直す機会ともなりました。パントリーでは、日本文化伝承の意味合いも込めて鏡餅を配布、ご寄附していただいたたくさんの野菜や果物を保存するため、梅干しや多種漬物を手作りし、会食時だけでなく、各自家庭でも出来るように配布にも使用しました。</p>		
<p>また、子ども達を取り巻く家庭環境は、家計費を抑えるため、子どものお菓子の購入を控えざるを得ない状況にあり、親御さんからも、子どもが甘いものに飢えていると言葉も聞こえるほどでした。松戸市子育て支援課から支援を希望される方について、相談対応・物資の支援を実施しました。</p>			
令和4年度（2022年度）事業の成果			
<ol style="list-style-type: none"> ① 誰でもが参加できる居場所 結果：月平均3.0回(参加人数平均：子ども28人/回・大人2.25人) ② お弁当配布やフードパントリー・衛生用品の配布実施 目標：月2回開催/年間24回開催 ・結果：月平均1.92回開催/年間23回開催（食堂開始時、都度配布野菜・果物・お菓子） ③ お弁当・食材の個別配布支援・月2回に限らず要請時、物品の値上げラッシュ後、週単位で支援を実施しました。（お弁当やお菓子、食材のご支援も実施） ④ 子育てが孤育てにならないように、親も子も息抜きの場とする。コロナ禍中に引っ越しをされてきた方や2歳～12歳の4人姉妹で参加、幼稚園・保育園児のみで参加されることも増加傾向にあり、親子が離れる場面を創ることができた事で息抜きの場となったようです。 ⑤ 通年・都度学習支援開催実施・長期休暇に限らず、開催毎、宿題・学習支援を実施 教える、教えられる関係ではなく、一緒に考え答えを導いていくような関りを勧め、学習の習慣や共に学びの機会を共有する形式で実施しました。また、地域の大学に通う大学生や高校生が今までの経験で得たことなどを、学び合う姿も多く見受けられるようになっております。 			
【団体紹介】			
<p>本子ども食堂は、子どもを中心に地域住民のコミュニケーションの場とし、生活に困窮する家庭の子ども達に、食事や学習指導、居場所を提供し、子どもたちの豊かで充実した生活と社会づくりに寄与することを目的としています。地域の多世代が支え合い共に暮らす地域を目指し、だれもが参加できる居場所・実家的な役割の構築を図るため、毎月2回～3回の食堂を開催、地域防災活動、都度個別支援を実施しております。お気軽にお声がけください。</p> <p>《問合せ先》梨っこ食堂 松戸市高塚新田 553-23（事務局：荒矢宅） 電話 080-3667-0769（代表：中村）</p>			

発達障害・不登校等の親の会事業	団体名	あんだんて
-----------------	-----	-------

事業費	84,980円	自己資金	34,500円	助成金	50,480円
-----	---------	------	---------	-----	---------

令和4年度（2022年度）事業の取り組み【報告】

当団体は、発達障害やグレーゾーン・不登校や不登園等の情報共有の場、仲間づくりを目的とし、正しい情報と選択、学びの場を持つことや、会って話せる仲間を作ることで、子育ての孤立を減らそうとする団体です。



- ①おしゃべり会の実施会 1年間で、のべ69名が参加
- ②親子レクリエーション 人員不足により未実施
- ③外部講師による講演会・勉強会
 - (1) 6/24 松戸市パートナー講座「特別支援教育について」
講師 松戸市職員 参加者 10名
 - (2) 7/5 「モンテッソーリ教育を学ぶ会」 講師 藤原一美氏 参加者 4名
 - (3) 7/26 「イエナプラン教育を学ぶ会（オンライン）」 講師 漆原幸子氏 参加者 3名
 - (4) 11/19 「アドラー心理学を学ぶ会」 講師 福田シェシャドウリ育子氏 参加者 3名

④事業内容についてチラシ制作・配布

会の周知のためのチラシを作成。

松戸市内小中学校および、放課後等デイサービスを中心に210箇所送付。

令和4年度（2022年度）事業の成果

- ①おしゃべり会について
リピーターが増えた印象があり、初めて来た方も先輩保護者の話を聞きやすい場作りができた。
- ②親子レクリエーション 事務局側のスタッフ不足により未実施。
- ③外部講師による講演会・勉強会 子育てに関する学びが得られたと好評だった。
- ④チラシの制作および配布 市内の小中学校・放課後等デイサービス210箇所にチラシを送付した。小学校の先生から「こんな団体があったとは知らなかった」という声も聞かれた。

＜総合的な事業成果と展望＞

引き続き、子育てに関する悩みに共感し合い、保護者との関わりをつないでいきたい。特別なことはできなくても、まず会があり続けること、そこに行けばホッとできるような居場所を継続できればと考えている。

【団体紹介】

＜団体概要＞2013年に発足した障害児・グレーゾーン・不登校・ホームスクーラー等の保護者のための親の会。月1のおしゃべり会、不定期で勉強会・講演会などを行なっている。先輩ママの経験談を聞いたり、学校や幼稚園での出来事をゆっくり話しませんか？お気軽にお問い合わせください。

《問合せ先》

団体名 あんだんて

住所 松戸市松戸1117 ビラ松濤 2F C号室 まちかどアトリエ Neuro

メール machikadoneiro@gmail.com 担当：日置 HP <https://neirokirara.com>

松戸市民向け SDGs 普及啓発促進事業	団体名	まつど地域活躍塾つながりの会
-------------------------	-----	----------------

事業費	65,626 円	自己資金	10,163 円	助成金	55,463 円
-----	----------	------	----------	-----	----------

令和4年度（2022年度）事業の取り組み【報告】

松戸の市民社会の中で SDGs の理解を促進するため、下記の5つの活動を行った。

(1) SDGs 参画団体の拡大募集および意見交換・勉強会

SDGs ネットワーク団体との意見交換会・勉強会を2回開催。会議では、SDGs の動向や松戸市の SDGs 未来都市に関する進捗状況について理解を深めた。



SDGs 応用講座



SDGs 写真展示会

(2) 松戸市民向け SDGs 教材の開発・試行

松戸市民向けの SDGs 教材開発は内容の構想のみに留まり、教材の活用した普及啓発の試行までは実施することができなかった。

(3) 地域への SDGs 普及啓発の推進

松戸開催の市民イベントを活用してそこへ出展をすることや、広報資料(チラシ)を作成して市の施設等に配布した。そして、市民から問い合わせを頂き SDGs 勉強会の開催につなげることができた。

(4) SDGs 応用編講座開催

本応用講座へ参加した人は15名(2日間合計)。講座1日目は、座学を中心に SDGs の概要を知るための講義やアクションプランを作成。2日目は、SDGs の現場体験スタディツアーとして、JR 松戸駅西口周辺でごみ拾いのイベント参加や市民による太陽光発電所を視察。

(5) SDGs 写真コンテストと展示会の開催

本コンテスト・展示会では、15名程が参加。SDGs 概要紹介、SDGs ゲーム体験や表彰式を開催。

令和4年度（2022年度）事業の成果

(1) SDGs 参画団体の拡大募集および意見交換・勉強会

合計19の団体・企業・個人が参加し、SDG ネットワークの輪を広げることにつながった。

(2) 松戸市民向け SDGs 教材の開発・試行

教材の試行はできなかったが、下記(3)の活動成果にもあるように地域での SDGs 普及啓発を実施する際に独自の学習資料を作成して進めることができた。

(3) 地域への SDGs 普及啓発の推進

松戸市の SDGs の取り組み状況を含めた SDGs の理解を深めるための勉強会資料(パワーポイント)を作成し、計6回に渡る地域社会での SDGs 学習会やその普及啓発の取り組みを実施することができた。

(4) SDGs 応用編講座開催

松戸市の2日目にスタディツアーの現場体験プログラムを取入れたことで、参加者からは SDGs の理解を深めることができたとの意見をもらったことから、体験学習を通じた SDGs 普及啓発の重要性を汲取ることができた。

(5) SDGs 写真コンテストと展示会の開催

37作品の SDGs 写真をテーマとした応募があった。SDGs の各目標と人、自然、暮らし、市民・企業活動等と関連づけた多様な写真の応募があり、写真から SDGs と私たちの生活との接点を考えることの大切さを認識することができた。

【団体紹介】

2017年松戸市で開催した「まつど地域活躍塾」の修了生有志によって2019年に立ち上がった団体で、活躍塾の目標を実現するため、修了生の地域での活動・活躍を支援し、地域の活性化に寄与することを目的としている。当会では、2019年4月から SDGs 推進メンバーが中心となって松戸市民が SDGs に関心を持ち、個々の行動につながることを目指し、市内の関係機関と連携して活動している。

《問合せ先》まつど地域活躍塾つながりの会、090-6509-1615、

matsudo.tsunagari@gmail.com, <https://www.facebook.com/matsudo.tsunagarinokai>, 佐藤秀樹

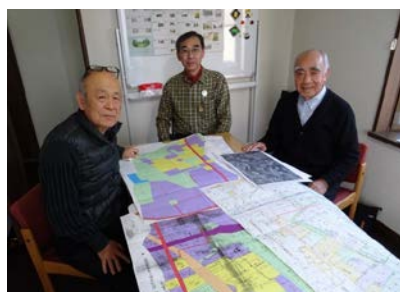
金ヶ作歴史散策まっぷ プロジェクト事業	団体名	金ヶ作歴史同好会
------------------------	-----	----------

事業費	171,573 円	自己資金	71,573 円	助成金	100,000 円
-----	-----------	------	----------	-----	-----------

令和4年度（2022年度）事業の取り組み【報告】

本事業のきっかけは、2020年9月26日から開催された松戸市立博物館の企画展「松戸と徳川将軍の御鹿狩」でした。これはいけない。金ヶ作の歴史が埋没していると感じてプロジェクトを立ち上げ、地元の強みを生かして、もっとこの魅力を発信しよう取り組みました。

成果物としての歴史散策まっぷは具体的な目標としましたが、手づくりと散策コースの検証などを通じて、地域おこしにつながる多くの協力関係を築くことがその最終目的。心がけたのは歴史事実を踏まえたまっぷにすること。松戸市域の中心部にある自然と文化と歴史の魅力を発信すること。散策コースは、子供からお年寄りまで楽しんでもらえるようにすることを意識しました。



令和4年度（2022年度）事業の成果

- ・金ヶ作歴史散策まっぷ A2 サイズ、両面カラー印刷、四つ折り（A4 仕上げ）、600 部印刷。
表紙イラスト。散策コースは初心者向け 2 時間程度の 3 コース。裏面は地形図。
 - ・主な配布先 松戸市立博物館 200 部、本会員 100 部。今回の事業を通じて連携した故郷を考える会、個人レベルでの地元関係者、歴史や自然を愛する方々など。とくに門前町会には謝意を贈ります。
 - ・事業に関連して、常盤平陣屋前町会がホームページを立ち上げる際に挿絵や歴史解説で協力できたこと。第 36 回ときわ平地区文化会文化祭に地域史で参加出展したこと。歴史事実を明らかにしたことなどが挙げられる。とくに金ヶ作陣屋の敷地については、追跡調査の結果、具体的な所在地を特定できた。これはまっぷづくりでの大きな成果となった。
- 今回、得られた知縁を踏まえてさらに地域の魅力を発展させたいと考えます。

【団体紹介】

松戸市域の中にあって、金ヶ作が埋没しているように感じた歴史好きが2014年9月に発足させたローカルな金ヶ作歴史同好会です。自然やその歴史など地域の魅力を発信するとともに、次世代への伝承および会員相互の親睦を図ることを目的としています。

《問合せ先》

【団体名】金ヶ作歴史同好会

【TEL】047-386-2976 【e-mail】aa0000352@gmail.com 【代表】堀井英夫

ぶどうの家 ふれあいコンサート・ イベント事業	団体名	特定非営利活動法人葡萄の家	
事業費	171,572 円	自己資金	71,572 円 助成金 100,000 円
令和４年度（2022年度）事業の取り組み【報告】			
<p>① おもしろ実習教室 8月に予定をしていたが、新型コロナの収束のめどが、たたなかったため、今回はやむなく中止にしました。</p> <p>② ふれあいコンサート 10月22日（土）森のホール21 セレモニーホールにて、「ジョーバン・バロック・アンサンブル」によるふれあいコンサートを開催。「障がいも一つの個性と理解してもらいたい。」の課題は、障がい者と付き添いの方の参加もあり、障がいのあるなしに関係なく、身近な隣人の様に、皆さんそれぞれの方法で音楽を楽しまれました。</p>			
令和４年度（2022年度）事業の成果			
<p>① おもしろ実習教室 中止になってしまったので、「1回の講座で50人を集める。1日3回の講座をひらく。」の目標は達成できませんでしたが、人気のイベントなので、開催すれば達成出来ると思います。</p> <p>② ふれあいコンサート 障がいのある方も含め、84名の方が参加していただきました。 「1回の公演で、50人以上の来場者を目指す。」の目標は達成できました。</p>			
【団体紹介】			
<p>柏市で知的障がい者グループホーム「第一ぶどうの家」を運営しています。 また、障がいのあるなしに関係なく、参加できるイベントを実施しています。 イベント内で、同じ場所・同じ時間を過ごすことによって、障がいも一つの個性だと理解してもらう事を目標にしています。</p> <p>《問合せ先》 特定非営利活動法人葡萄の家 事務所：松戸市本町6-8-801 TEL・FAX 047-364-6899 budou_ie@yahoo-co.jp 担当者：西手 にして</p>			

<p>四世代のきずなで、豊かな生活環境を実現する事業</p>	<p>団体名</p>	<p>小金原みんなでわくわくする会</p>
--------------------------------	------------	-----------------------

<p>事業費 127,964 円</p>	<p>自己資金 47,095 円</p>	<p>助成金 80,869 円</p>
----------------------	----------------------	---------------------

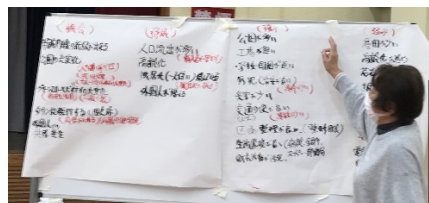
令和4年度（2022年度）事業の取り組み【報告】

1. 目的

地域における身近な課題をSDGsの観点から見直し、全世代が自主的に取り組むことを通して、良好な地域社会の維持及び発展に資すること。

2. 取り組んだ課題

- 1) SDGs勉強会を通して、町会活動の目標と共通していることの理解。
- 2) SWOT分析による地域の強み・弱み分析
- 3) ごみ箱のアンケート調査を通して、美化、整理・整頓の意識付けと掃除用具の設置。



令和4年度（2022年度）事業の成果

1. 講師を招いてSDGsの勉強会を4回開催し、SDGsの趣旨と我々の住民活動が合致していることを理解できた。（参加者（平均）構成員：8/10名、地域住民：5/50名）
2. さらに、SWOT分析手法を用いて、地域の強み・弱み分析し、次年度に向けて4件の活動テーマを選定した；①高齢者対策と世代交流、②生ごみの堆肥化、③グリスロの活性化、④町会館の活用化
3. ごみ箱の使用に関するアンケート調査を行い、掃除用具の設置により、美化、整理・整頓の意識向上を図った。（アンケート配布；構成員：10/10名、地域住民：36/36(班長)）

【団体紹介】

町会の会長以下役員が年々高齢化していく中で、現在の活動をSDGsの切り口に整理して、全世代で担い、より良い生活環境に変えていくことを目標として、小金原地区で活動しています。

学生の方や若い世代の方々と一緒に活動していきたいと思っておりますので、興味のある方は、是非連絡ください。

《問合せ先》

小金原みんなでわくわくする会：松戸市小金原三丁目4-5 小金原会館内

Tel:343-4816、Fax:343-4824、e-mail:nobifuna@aol.com、担当者：船橋 登

松戸市ご当地漫画&アニメ制作事業	団体名	超普通スタジオ
------------------	-----	---------

事業費	220,910円	自己資金	120,910円	助成金	100,000円
-----	----------	------	----------	-----	----------

令和4年度（2022年度）事業の取り組み【報告】

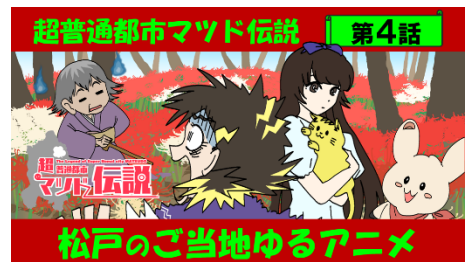
①プレスリリースやSNSを利用し、制作する漫画・アニメの舞台やテーマとなる松戸の魅力・情報を広く募集し、同時に参加者も募る。(4/1~6/30、8/1~11/30)

※126件の情報：ラーメン、子育て、コスプレ、21世紀の森と広場、祖光院の彼岸花、市民運動公園が広い、マッドシティなどの意見が多かったです。

②集まった情報から、より詳細がわかるよう取材を実施(7/1~9/30、11/1~1/31)

③PR漫画・アニメを制作する(8/1~3/31)

④完成した漫画をHPやSNSで公開、アニメを、YouTubeなどの動画サイト・SNSで公開(9/23~3/31)



令和4年度（2022年度）事業の成果

A. 連携を希望する方、情報、スタッフの募集【応募数合計：126件】

B. 漫画の閲覧数&アニメの閲覧数【3話合計：30,245回】(HP、Twitter、Facebook、Instagram)

※漫画は全て公開済みですが、トラブルがあり、アニメ公開が遅れております。4月中にすべて公開見込みです。

【団体紹介】

2020年4月設立の企画団体。『若者を中心とした市民に有益で効果的な情報発信』を軸に地域活性化を目的としたご当地作品（漫画・アニメ）制作を行う団体です。

《問合せ先》

【団体名】超普通スタジオ

【TEL】090-5476-4356 【MAIL】chohutsu@gmail.com

【HP】https://chofutsu.dekimachi.com/ 【担当者名】楠本 慶彦

<p>みんなで育て、 みんなでつくる 沿道での食べられる景観事業</p>	<p>団体名</p>	<p>エディブルウェイ プロジェクトチーム</p>
--	------------	-------------------------------

<p>事業費 369,448 円</p>	<p>自己資金 69,448 円</p>	<p>助成金 300,000 円</p>
----------------------	----------------------	----------------------

令和4年度（2022年度）事業の取り組み【報告】

沿道の住宅や店舗前のスペースに、お揃いのプランターを設置し、野菜やハーブなど食べられる植物を育てる「食べられる景観」づくりや、植物を使ったクラフトづくりを行うことで、地域環境を学び合う場づくりや、住民の交流のきっかけづくり、関係構築を図る活動です。

1 プランターへ苗植え講座開催と植え替え活動（4-5月・9月）

5月にタネ苗配布会と、植え替え講座を実施。9月は、苗タネの配布だけではなく、タネや、ハーブの挿し穂、苗などを持ち寄る“交換会”という形をとり、参加者同士の交流のきっかけとなりました。



タネ・苗配布交換会

2 子ども向けクラフト・アートワークショップ（12・2月開催）

2月はクリスマスモビールづくりを開催。2月は自然素材を使ったひみつきちづくりを、絵本をテーマにしたスペース「こでまり」を会場に開催。ワークショップで作った作品の展示、エディブルウェイに関連する野菜や園芸活動をテーマにした絵本の読み聞かせに発展しました。「こでまり」に関連絵本を寄贈し、地域の子どもたちがいつでも活動に触れられるようにしました。



クラフト・アートWS

3 ハーブクラフトワークショップ（10・1月開催）

10月は日本ミツバチの蜜蝋とアロマ精油をブレンドして作る、アロマミツロウバームづくりを開催。1月は、ハーブとスパイスを束ねたキッチンで飾りながら使えるスワッグを作り、ハーブの使い方、効能についても学びました。



スワッグづくりWS

4 活動レポートを掲載した瓦版を季刊（5・8・11・2月）発行し、地域各所で配布、Facebook、LINEオープンチャットで配信。これまでの活動内容をまとめた冊子を作成し、各活動の参加者、地域住民や活動に関心のある市民に共有し、身近な地域環境づくりの啓蒙活動につなげました。

令和4年度（2022年度）事業の成果

- ・沿道プランター栽培が10世帯増え、目標を達成できました。うち1世帯は、マンション自治会での参加で、子育て5家族とシニア2家族で協力して栽培活動をしており、今後の世代交流の活動が期待できます。
- ・講座に、専門的な知識を持つ講師を招いたことで、講座の内容が充実しました。市内のプロジェクト対象地域以外からも参加があり、プロジェクトを他の地域の方にも知っていただくきっかけとなりました。
- ・9月の植え替え活動は、苗タネの配布だけではなく、交換会という形をとりました。助成金がなくなったあとの継続性に貢献できる取り組みができたと思います。交換会は、参加者同士の交流にもなりました。

【団体紹介】 JR松戸駅から千葉大学松戸キャンパスまでの約1kmのエリアで、沿道から見える民地で、お揃いのプランターを用いて地先園芸的に野菜やハーブを育て「エディブル・ランドスケープ（食べられる景観）」をつくる活動や、植物を使ったものづくり活動を通して、人びとのコミュニケーションを生み出すことを目的に活動を行っています。※沿道のプランターの植物は各家庭で大切に育てています。摘み取りなどのご遠慮いただき、気になる方はオーナーさんにお声かけ下さい。

《問合せ先》エディブルウェイプロジェクトチーム

[メール] info@edibleway.org [HP] http://edibleway.org/ [Instagram]@edible.way 担当：江口

<p>親子で安心、子ども達が 楽しく育つ居場所づくり事業</p>	<p>団体名</p>	<p>なないろのもり</p>
--------------------------------------	------------	----------------

<p>事業費 448,000 円</p>	<p>自己資金 148,000 円</p>	<p>助成金 300,000 円</p>
----------------------	-----------------------	----------------------

令和4年度（2022年度）事業の取り組み【報告】

人数制限や完全予約3部制などの対策を講じながら、今年度の事業はすべて対面開催できました。

- ① 親子で一緒に参加できる夏のワークショップ・夏まつり【ワークショップ2日間。夏まつりは予定していた会場が、ワクチン接種会場となり、矢切幼稚園に協賛いただき会場を変更して実施】
- ② 子ども達と子育て世代の居場所づくり・通年開催【未就園児とママ達の居場所「おやこのにわ」の他に、多世代の交流の場として「みんなのにわ」も新たに開始しました。】
- ③ クリスマスフェスティバルの実施【完全予約の入替制で開催】



令和4年度（2022年度）事業の成果

- ① 夏まつり・ワークショップの参加人数は（目標：120名→結果：651名）
- ② 居場所事業の開催は、未就園児と保護者のみならず、地域交流の居場所へと進歩していききました。（目標：150人→結果：167名）
- ③ クリスマスイベントのべ来場人数は（目標：400人→結果：600人）感染対策を講じながら、安全第一に、人数制限、完全予約3部制にし、今年度はすべて対面開催でき、参加者の延べ人数は150%の達成となりました。

【団体紹介】

子育てが楽しいと感じる街づくりを目標に、親子で一緒に楽しめ人と人が繋がれるイベントや居場所を開催しています。地域と繋がり、今しかない子育ての時期を楽しめる環境づくりを目指して活動しています。

《問合せ先》

団体名：なないろのもり

Eメール：7iromori@gmail.com

ホームページ：http://7ironomori.jimdo.com/

<p>「食」と「コミュニケーション」によるつながりづくり事業</p>	<p>団体名</p>	<p>生きづらわーほりプロジェクト</p>
------------------------------------	------------	-----------------------

<p>事業費 260,864円</p>	<p>自己資金 50,387円</p>	<p>助成金 210,477円</p>
---------------------	---------------------	---------------------

令和4年度（2022年度）事業の取り組み【報告】

【目的】ひきこもり当事者（以下、「当事者」という）が抱えている生きづらさを和らげるために当事者をサポートする活動を実施する。一口に「ひきこもり」といっても、外出するのが難しい当事者や外出はできても就労や地域の人と接するには不安がある当事者など、一人ひとり状態は異なることから、当事者の状態や希望に即してきめ細かくサポートを行う。

■ 生きづら Cooking-Meeting 「つたわり」・「つたわりミニ」

当事者が集まって、みんなでランチを作り、一緒に食べながら楽しく会話をして過ごす場「つたわり」を3回、会話を中心とした簡易バージョン「つたわりミニ」を9回開催しました。オンライン会議（ZOOM）での参加もできるようにしました。



■ コミュニケーションワークショップ／食と健康講座

コミュニケーションに苦手意識を持っている当事者向けのワークショップを2回開催しました。2日間のワークショップで、身体を動かし、声を出すことで、緊張し固まっている状態をほぐす「ボイストレーニング」、コミュニケーションを実践しながら学ぶ「コミュニケーション講座」を行いました。その他、「食と健康講座」を2回開催して、当事者がしっかりと食事をして栄養を摂り、健康的に過ごすことを学びました。



令和4年度（2022年度）事業の成果

・「つたわり」「つたわりミニ」は毎月1回開催し、参加者は合計で54人でした。参加者数は目標に達しませんでした。新規に参加された当事者や久しぶりに参加された当事者などもありました。人と話す経験を得たり、他の当事者との情報交換を行ったりして、定期的に開催することにより社会とのつながりを作る端緒として機能しました。

・「コミュニケーションワークショップ」の参加者は13人、「食と健康講座」の参加者3人でした。いずれも参加者数は目標に達しませんでした。参加者からは「非常に貴重な経験ができて、ためになった」と好評を得ることができ、当事者の自信や意欲を高めることにつながりました。

【団体紹介】

ひきこもりやうつ等により孤立し、生きづらさを感じている人たちに対して本人の想いや行動をサポート・アシストすることによって、本人が抱えている生きづらさがやわらぎ、地域や社会で生き生きと暮らしていけるようになることを目指して活動しています。

《問合せ先》

生きづらわーほりプロジェクト

[メール] zurahori@yahoo.co.jp

[HP] <https://ikizura-wh.jimdofree.com/>

[担当] 富安

<p>ときわだいら オープンアトリエ事業</p>	<p>団体名</p>	<p>特定非営利活動法人 ディープデモクラシー・センター</p>
------------------------------	------------	--------------------------------------

<p>事業費 361,000円</p>	<p>自己資金 109,000円</p>	<p>助成金</p>	<p>252,000円</p>
---------------------	----------------------	------------	-----------------

令和4年度（2022年度）事業の取り組み【報告】

縮小ニッポンといわれるように、人口減少、少子高齢化、労働力不足、貧困の拡大、人々の孤立等の問題は、松戸市においても、深刻なものとなっています。世代や経済的な状況を問わず、社会的に孤立している人々が増えていきます。支援の現場でいつも思うことは、どうしてもっと早く相談してくれなかったのか？ということです。程度の差はあれ、社会的に孤立した状態で暮らす多くの人々が、どうしたら、SOSを出してくれるようになるのか？私たちはずっと考えてきました。必要なものは、「自己開示」と「他者理解」。そして「創造」と「想像」、私たちは、まるで違う切り口の場を持つことで、地域で孤立する人々を包摂し、互いに理解できるのではないかと考え、誰かと出会い、一緒にアートを楽しめる、小さくても地域にひらかれた場・・・、地域におけるアートとケアのための場<



オープンアトリエ>を展開しました。

- ・オープンアトリエ（講師・こまちだたまおさん）6回
（第1回「画材を知る」8/19、第2回「自分を知る」9/5、第3回「街を知る」10/3、第4回「人を知る」11/7、第5回「街を作る」2/12、第6回「空間を作る」2/19）
- ・オープンアトリエスタッフ養成講座 2回
（10/16 こまちだたまおさん、2/26 加納基成）

令和4年度（2022年度）事業の成果

- ・オープンアトリエの参加者 目標：のべ100人 結果：のべ57人
結果57名だったため目標は達成できなかったが、より広範の属性の方の参加を実現できた。
- ・常盤平という街において、社会的な孤立に抗っていきたい、という思いでスタートした事業ですが、ずっと団地に住んでいる方、最近移り住んできたけどあまり知り合いがいないという方、障害のある方、引きこもりがちの方、生活困窮からの生活再建中の方、刑余者の方、LGBTといわれる方、DV被害に遭われた方、など多様な人々が、表現という共通項の元に、空間と時間を分かち合うことができました。

【団体紹介】

常盤平地区で、相互扶助による地域づくりを行っています。

《問合せ先》

特定非営利活動法人ディープデモクラシー・センター 松戸市常盤平 2-9-6 第5石川ビル3F

Eメール・info@deepdemocracy.center web サイト・www.deepdemocracy.center

<p>松戸市民も命を大切にしてみます事業</p>	<p>団体名</p>	<p>地域猫スタートサポート</p>
---------------------------------	------------	---------------------------

<p>事業費</p>	<p>449,225 円</p>	<p>自己資金</p>	<p>149,225 円</p>	<p>助成金</p>	<p>300,000 円</p>
------------	------------------	-------------	------------------	------------	------------------

令和4年度（2022年度）事業の取り組み【報告】

日本国は屋外猫・野良猫を増やさないように『地域猫活動』を推進しています。

地域猫活動は猫の繁殖抑制だけではなく地域の環境問題や治安悪化防止、そして動物を通して命の大切さを知ってもらう事も地域猫活動の大きな目的です。

今年度は企画していた町会（北松戸町会）と地域包括支援センター（明第二西高齢者いきいき安心センター栄町）との共同開催での相談会も実現できて多くの方に知ってもらいました。そしてもう一つの企画で地域猫活動のドキュメンタリー映画も上映でき、今年度も前年度よりレベルアップした事業が行えました。

地域猫活動を続けるのは簡単な事ではありませんので、この松戸地域猫スタートサポートの相談会に参加して多くの仲間と助け合いながら一緒に進んでいく事が一番の近道です。

喋る事のできない動物の気持ちを理解して優しくできれば、子供も大人も自然と人に対しても優しくなれます。そんな社会を目指して今後も活動をしてまいります。



保護から不妊、育て方や譲渡、飼い主のいない動物の亡骸を燃えるゴミ扱いしないできちんと火葬をする社会を目指す為のアドバイスも致します。全ての命に優しい街づくりの為に！

令和4年度（2022年度）事業の成果

4年間相談会を開催して参加して下さった多くの方が、新しい企画に参加したいといらして下さいました。相談会に参加して下さった方からの評価はとても良く、大満足していただきとても良い結果となりました。

4年度（4年間）を終えて「地域猫活動とは何？」が少し広まってきましたが、まだまだ多くの方に行き届いていませんので今後も沢山の周知をして広めていきたいと考えて活動いたします。

【団体紹介】

屋外にいる猫（野良猫）は野生ではありません。野生動物でも生きていくのは大変な時代に野生でない犬や猫が外にいる事がもう既に問題です。飼い主のいない猫も日本では愛護動物に指定されますので遺棄や殺傷、ネグレクトは刑罰が科されます。動物を通して子供も大人も人と人とが優しく暮らせる治安の良い街づくりを目指しています。

《問合せ先》松戸地域猫スタートサポート

☎080-3405-8986（ショートメッセージ受信不可） 担当：川野ひろし



冒険山開放に伴う見守り事業	団体名	冒険山開放委員会
---------------	-----	----------

事業費	160,673円	自己資金	28,893円	助成金	131,780円
-----	----------	------	---------	-----	----------

令和4年度（2022年度）事業の取り組み【報告】

- (1) 学校開放日の見守り活動 全20回 子どもの参加 126名 見守り 66名
毎月第一、第二日曜日は小金北小学校の開放日で、校庭で遊ぶ子供たちの見守り活動を実施しました。昔ながらの遊び道具（竹馬、ぽっくり、けん玉、こまなど）を揃え一緒に遊びながら指導も行いました。
- (2) 北小学校（冒険山含む）の校庭に草刈を実施。7月24日 60名の参加（開放日の活動団体）
- (3) 8月26日 里山散策とザリガニ釣り大会の実施。根木内歴史公園にて 参加者19名
根木内歴史公園管理団体「根っこの会」様のご支援をいただく。
- (4) 10月26日 オンラインセミナー 15:00~16:30 参加者 4名
- (5) 11月27日 焼き芋の集い実施 場所 中金杉浅間公園 参加者110名
ガールスカウト千葉県26分団より3名の支援をいただく。火起こし体験実施。
公園内で中金杉スマイルクラブの指導によるグランドゴルフ教室、子どもソフトボールチームによるストラックアウトの実施。
- (6) 1月8日 新春凧揚げ大会の実施。 東洋学園大学グラウンドにて 参加者27名



参考写真



令和4年度（2022年度）事業の成果

- ① イベントを強化することにより開放日の参加者を増加
目標 20名以上 結果 平均8名程度
参加者の増加はなくさらに検討を重ね増員を図ります。現状では一番の課題。
- ② 見守り隊員の人員強化
目標 隊員の配置人数は2~4名。結果 ほぼ予定の人員は確保でき問題はありませんでした。

【団体紹介】

「子どもたちの健やかな成長を願って」を理念として、冒険山開放委員会を令和元年6月に発足。子どもたちは自然から学び、遊びから学ぶ。見守り活動によって学びの機会を提供し、子どもたちを支えていこうという志を持った団体。

《問合せ先》 冒険山開放委員会 石崎 建夫 連絡先 090-2437-4313

協働のまちづくり基金

令和4年度は 市民活動助成事業

13事業 を応援しました！！

スタート助成			
梨香台団地付近の多世代交流型居場所事業 P7	発達障害・不登校等の親の会事業 P8	松戸市民向けSDGs普及啓発促進事業 P9	金ヶ作歴史散策まっぴプロジェクト事業 P10
ぶどうの家 ふれあいコンサート・イベント事業 P11	四世代のきすなで、豊かな生活環境を実現する事業 P12	松戸市ご当地漫画&アニメ制作事業 P13	
ステップアップ助成			
みんなで育て、みんなでつくる 沿道での食べられる景観事業 P14	親子で安心、子ども達が楽しく育つ居場所づくり事業 P15	「食」と「コミュニケーション」によるつながりづくり事業 P16	ときわだいらオープンアトリエ事業 P17
松戸市民も命を大切にしてみます事業 P18	冒険山開放に伴う見守り事業 P19		

【 協働のまちづくり基金とは 】

市民、市民活動団体、事業者の皆様から寄せられた寄附金及びその同額を市費で積み立てるマッチングギフト方式を取り入れた基金です。この基金がまちを明るく元気にする「市民活動助成制度」の原資となっています。

市では、皆様からの寄附金のほか、チャリティー自動販売機の設置を通じて基金を育成しています。市民の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

HP 松戸市トップページ ▶ くらし ▶ 市民活動 ▶ 協働のまちづくり（市民活動の活性化と協働の推進） ▶ 協働のまちづくり基金

http://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/shiminkatsudou/kyoudou_machidukuri/kikin/index.html

令和4年度 協働のまちづくり基金 寄附者一覧

ご寄附いただきました皆様にお礼申し上げます。

- ・ 東京キリンビバレッジサービス株式会社 様
- ・ コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 様
- ・ 洗濯屋あべ 阿部忠 様
- ・ 株式会社 伊藤園 様
- ・ チャリボンを通じて寄附して下さった皆様
- ・ メルカリ寄付を通じて寄附して下さった皆様

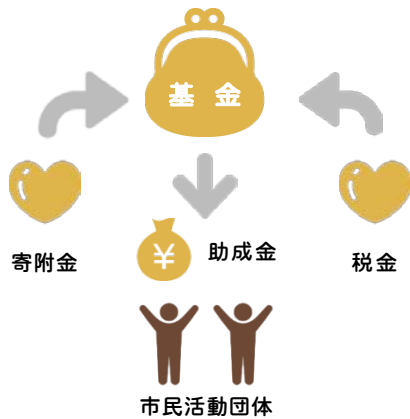
※公表に同意いただいた方のみ掲載しています。



市民活動助成金は

寄附

を活用しています



市民活動助成金は、市民や民間事業者のみなさんから、市民活動団体の支援のために寄せられた「寄附金」と「税金」を合わせた「協働のまちづくり基金」を原資としています。豊かで元気な松戸市を目指して、市民活動を寄附で応援しませんか？

「協働のまちづくり基金」は、皆さんからいただいた寄附金と、その寄附金と同額を市の財源から合わせて積み立てる「マッチングギフト方式」を取り入れています。

チャリティー自動販売機

市内に16台あるチャリティー自動販売機で飲み物を購入すると、売上金の一部が寄附されます。

まつど市民活動
サポートセンター
などに設置しています。

- ・まつど市民活動サポートセンター
- ・市役所駐車場入口
- ・矢切支所
- ・常盤平支所
- ・新松戸支所
- ・ユーカリ交通公園
- ・洗濯屋あべ
- ・常盤平老人福祉センター
- ・シニア交流センター
- ・小金原市民センター
- ・小金支所
- ・ひがまつテラス



チャリティー自販機について
←詳しくはこちら

寄附をお待ち
しています



松戸市協働のまちづくり基金について
詳しくは市ホームページをご覧ください



チャリボン

いらなくなった本をチャリボンに送ると、その本の買取査定額が寄附されます。



CHARITY
BY THE BOOK

メルカリ寄付

メルカリで出品した商品の売上金を、メルペイ残高を通じて寄附できます。



銀行振込

市役所総務課にご連絡の上、銀行振込で直接基金に寄附できます。

令和5年5月

発行 松戸市 市民部 市民自治課

〒271-8588 松戸市根本387-5

TEL 047-366-7318

FAX 047-704-4009

E-mail mcshiminjichi@city.matsudo.chiba.jp